

第20回 シニア品川総会

3年ぶりに健康教室&懇親会を開催



第20回「シニア品川」総会

3年ぶりに懇親会も実施したシニア品川総会

シニア品川会長
吉田 吉末

3月25日(土)に第20回シニア品川総会を46名の参加で中小企業センターにて、3年振りにコロナ禍以前の規模に戻して健康教室と飲食を伴う総会として開催しました。

健康教室では、石田保健師より『皮膚から始まる健康の話』と題した講義をして頂き、皮膚の3つの役割(①微菌が入らない②水分の蒸発を防ぐ③傷がつかないようにする)から、加齢と共に表皮が薄くなって、水分の量が減少して皮膚がかゆくなる乾燥になるので、水分をよく取る事。特におすすめは、麦茶・桑茶・ごぼう茶・水道水等がよい事。ダメなのは、お酒・カフェイン入りの飲み物は、なるべく控える事等

を学びました。また、体操等をして、元気良く楽しく過ごすことが一番良いそうです。講義後、活動報告・方針案・会計報告を採択し、新役員の大西さんに閉会の挨拶をして頂いた後、参加者全員で写真を撮り、総会を終えました。

総会後は、懇親会に移り、一杯お酒を呑みながら、お弁当を頂き、無事に終了しました。参加された皆さん、お疲れ様でした。

なお、23年度の体制は次の通りです。
会長 吉田吉末・副会長 長 高柳訓雄・阿部タミ子・中澤和夫・大西晃・秀一(※敬称略)



石田保健師による講義の様子

世界一厳しい安全基準?



品川分会
高橋 宏

原発の安全神話が広く受け入れられていた時代(小生も何となくそれを受け入れていたのだが)最近亡くなるまで、原

発の危険性を訴え続けた僧侶がおった(※「けんせつ」3月20日付コラム)。福島県楡葉町宝鏡寺住

職の早川篤雄さんは「原発問題福島県民連合会」代表として、原発の安全神話を警鐘を鳴らし続け、早くから津波による事故の危険性も指摘してきた。しかし、国も東電も耳を貸さぬまま、あの原発事故になった。もし国や東電がこれらの警鐘を多少とも考慮していたら、あれ程の事故にはならなかっただろう。その意味

で国や東電の責任は重大である。しかしこれに懲りず最近政府は、原発の新設を含む廃炉延長等の方針を決定した。新しいキャッチフレーズは「世界一厳しい安全基準」である。しかし、地球の破壊力が安全基準の枠内に収まってくるといふ保証はないし、戦争で攻撃目標にならない保証もない。また、核のゴミ問題も考慮したら



あの事故から一体何を学ぶんだのだろうか



今の形式となって7年目を迎えた集団健診



晴天の下、レントゲン撮影

八丈島分会集団健診

レントゲン車を使って青空健診

【社会保障対策部報告】 4月19日(水)、八丈町・大賀郷公民館にて、16名の組合員と家族が、集団健康診断を受診しました。これまでレントゲン撮影については、事前に島の2日間を使って実施し、2017年から現在の形式となつて、八丈島分会の特定健診受診率は、常に60%を超え、品川支部全体の特定健診受診率向上に寄与しています。

今後とも島の組合員・家族の健康を守り、特定健診受診率70%超えを目指して取り組みを進めます。

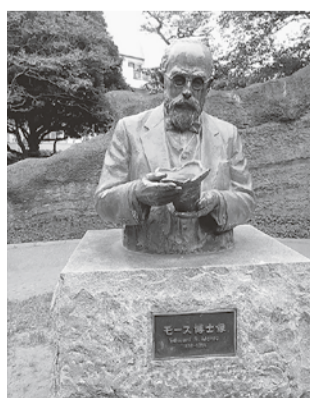
品川の庭園 大森貝塚遺跡庭園

南品川分会
櫻井 守

品川区と大田区の区境で、池上通りに面した所に『大森貝塚遺跡庭園』があります。普段から多くの人が訪

れていますが、特に春は桜が咲き誇り、素晴らしい景色が見られます。この貝塚が発見されたのは、1877年に来日した、エドワード・シルヴェスター・モース博士が、横浜から新橋に向う

車中から発見し、1879年7月に「大森貝塚調査報告書」が出されたそうです。現在は、遺跡公園として北口より徒歩5分



公園内にあるモース博士像

ぶらり品川

その⑨